

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立伊岐佐小学校
1 前年度 評価結果の概要	・主体的に学習に取り組む姿勢を育てるために、めあての提示・ふり返りを書く活動を丁寧に行った。資料提示やクラスワークをタブレット端末を使用して行うことで授業改善も進んだ。 ・年間カリキュラムに位置づけている人権教室や年2回のいじめアンケートを実施することで、児童は「いじめをしない・させない・許さない」ことが人権遵守につながることを理解した。 教職員間で、児童の様子を常時伝え合い、話し合うことで、児童一人一人の育ちを共有し、指導や支援に繋げた。 ・「生活習慣100点運動」を学期ごとに取り組み、家庭との連携も進んだ。
2 学校教育目標	確かな学力、豊かな心、健やかな体 ～知・徳・体のバランスのとれた力をはぐくむ～
3 本年度の重点目標	・基礎学力の定着にむけて、個に応じた指導の改善や資料提示の工夫 ・法に基づくいじめの理解及びいじめを許さない学校風土づくり ・生活習慣等について育友会と連携した取組み

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ラーニングマウンテン	●「粘り強く学習に取り組み、学習調整することができた。」の質問に対しての肯定的な回答した児童80%以上	・教科の資質・能力や系統性を考えた学習課題の共通理解 ・授業公開(相互参観)による授業改善 ・日常的なタブレットの利活用	B	・ゴール(学習目標)に向かって、主体的に取り組む態度は養われつつあるが、学習を調整することに関しては、学習活動の方法の工夫などの面も含めて次年度への課題として繋げたい。	B	・ラーニングマウンテンを使って、個に応じた指導を継続して取組んでいる成果が出てきている。自信をもって取り組んでほしい。 ・タブレットの活用をして、他の学校などと交流を図ってもらいたい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業において、①自分ごととして②多面的・多角的なふりかえりをしている児童75%(振り返り分析)	・互いの考えを深められるような発問と交流活動の工夫 ・職員研修において、道徳の価値内容を自分ごととして考え、多面的・多角的に考える指導法の共通理解	A	・考えやすいように、教材や資料を準備し、自分の生活と結び付けて考えさせた。友だちと考えを交流することで学びのよさを生かしていた。学んだことを集会で発信することでも、自分事として考える児童の感想が増えた。	A	・道徳を柱として、各教科等との内容と関連付けながら取り組んでいることがわかった。 ・教師同士で情報交換して、道徳教育のよりよい在り方や日常生活に活かせる授業づくりを考えてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・「いじめアンケート」(年2回)の実施 ・「こころのアンケート」(定期的)とQ-Uテストの実施 ・子どもの困り感に寄り添う児童理解研修会の実施	A	・なかよし人権教室で、ピンクシャツデーやいじめ、言葉について全校で考えた。「心地よい言葉のシャワー辞典」と関連させ「スマイルの木」に友だちのいいところを見つけて掲示・紹介した。子どもたちは進んでカードを書き、いじめをなくすことや安心できる言葉を使うことを考えた。様々な職員で子どもの相談にのった。	A	・QU調査等での児童の実態把握をはじめ、未然防止、早期発見に努めている状況がわかった。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを効果的に活用し、児童や保護者への相談体制も取れていてありがたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上	・「出番、役割、承認」のある教育活動の計画的な実施 ・目的意識をもち、ふるさとを大切に思う態度を育てる地域学習の実施	B	・地域の方をゲストティーチャーとしたさまざまな体験学習(伝統芸能(太鼓)、いちご狩り、田植え、そばの収穫、豆腐作り等)を通して地域のよさを実感することができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は低学年では90%以上だが、年齢が上がるにつれ低くなっていた。「将来の夢」についても同様の傾向が見られ、自己肯定感が低くなっていることが課題である。一人一人のよさを認め合う活動を今後も取り入れていきたい。	A	・小規模校の良さを生かしていてうれしいことである。子どもの時の体験は、大人になっても心に残っている。是非続けてほしい。 ・学校全体で相知町小学生マラソン大会に参加するなど、学年に応じた地域学習や交流が伝統的に行われていて素晴らしい。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	②学期に1回「生活習慣100点運動」を実施し、100点達成する児童の割合が90%以上を目指す。	・「生活習慣100点運動」の学期1回(5月9月1月)の取組みと学校便り、学級通信等での発信 ・SNS等の使用についてアンケート調査の実施及び情報教育講演会の実施 ・発達段階に応じた保健指導(虫歯予防や感染症予防等)を実施し、日頃の生活で実践しようとする態度を育てる。	A	・「生活習慣100点運動」を年間3回実施し、個別の生活指導の指標として活用できた。 ・「おそうじマウンテン」は、10分間しっかり掃除することの意欲づけとなり効果的であった。 ・健康タイムでの全校での大縄を小グループにし、低学年の児童が上達しやすくなったことも良かった。マラソンタイムは、悪天候により中止になることが多かったが、休み時間に自主的に練習する児童もいて、駅伝大会では、全校児童がゴールをめざして力走した。 ・保健だよりを毎月発行し、望ましい食習慣について指導を行った。	A	・ユーチューブやゲームのルールについては、育友会や学校の両方で取り組んでいくべきだと思う。講演会等を開き、保護者の意識を変えていくことも大事だと考える。 ・今後も家庭と連携して取り組んで欲しい。生活習慣の定着は極めて大事だと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・職員会議資料の電子化、資料の事前配付による職員会議60分以内の徹底	A	・定時退勤に関しては、ある程度勤務終了と同時に退勤することができている。 ・職員会議に関しては、事前の企画会で会議の中身を確認したり、協議内容の軽重を確認したりすることで、概ね60分を目途に会議を終了することができている。	A	・職員の異動があっても、誰でもすぐにわかるようなデータ、ファイル等の整理整頓をして効率化を図ってほしい ・人材確保の面からも、業務効率化を推進していくことが大切だと思う。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	A	・特別支援教育に関する専門性が向上したと肯定的に回答した教員は100%であった(「はい」は88.8%、「どちらかといえばはい」1名で11.1%)。	A	・保護者や専門機関との連携をとっていることが分かった。これを継続して欲しい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・学力向上～ラーニングマウンテンの実践を通して、個別最適な学びと協働的な学びを深化させ、学習調整しながら学びに向かう児童を育成する。 ・心の教育～自他を大切にし、違いを認め合う心を育む。 ・健康体づくり～日頃の規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)の励行と学期スタートに行う生活習慣100点運動を生かして健康な体になるように取り組む。 ・業務改善～業務内容の軽重を考え、限られた時間でどのように仕事をしていくのか考えながら働く。 ・特別支援教育～専門性を高め、児童の実態に応じた支援体制を整えていく。
--------------------	---